

地方自治ここにあり 首長インタビュー②

観光産業の再創造でめざす地域振興 対話の行政で信頼を回復へ



堀 順一郎町長

那智勝浦町 堀 順一郎 町長

前号(三〇五号)で、平成三〇年十一月九日の堀 順一郎那智勝浦町長インタビューを「地方自治ここにあり 首長インタビュー①」として紹介しましたが、今回はその後半部分を紹介します。聞き手は、当研究所の鈴木裕範常務理事です。

マグロ文化を再評価 延縄漁は環境型漁業

鈴木：幾つもの資源の再評価に基づく価値のブラッシュアップが行われていく必要があります。それと、私が住民の方から聞く不満のひとつに、町の文化行政への取り組みの不十分さ、関心の低さがあります。どうお考えですか。

町長：文化は、いろいろ切り口があると思います。歴史的な文化、文化財の文化

とか、歌や楽器というような文化、あるいはマグロの文化というものもあると思います。いろんな民間団体がある中では、支援はさせていただこうと思っています。私は、マグロ文化はきちっと後世に伝えていかなくてはいけないし、この歴史もクローズアップしてPRしていきたい。今クロマグロの資源枯渇のために総量規制が世界的な動きです。那智勝浦町で揚がるマグロは延縄漁です。延縄漁というのは、例えば一〇〇本の針に餌を付けて釣ります。仮に一万匹のマグロが来ても一〇〇匹しか捕れません。しかし網というのは、一万匹あつたら、大きいのも小さいのも全部捕りきります。そういう意味では、マグロ延縄漁は自然環境に優しい漁業と言えます。

ビン玉をこの町長室に置いていますが、昔は延縄漁でブイとして浮かべていたものです。このビン玉をモニメントとして置いて、ライトアップしたり、マグロが食べられるところに置いて、伝えていきたいと思っています。この網(ビン玉を包む)をつくっている脇仲倶楽部の皆さん方も協力いただいて、編み方教室も行っています。そういう文化を伝えていくことも、誘客の一つのツールとして使っていきたいと思っています。



勝浦漁港のマグロ水揚げ風景

目次

地方自治ここにあり 首長インタビュー② 観光産業の再創造でめざす地域振興 対話の行政で信頼を回復へ 那智勝浦町 堀 順一郎町長……	1
第8回わかやま住民要求研究集会記念講演② 安倍政権が狙う地方自治体のあり方 京都大学大学院教授 岡田 知弘……	4
地域資源を活かす① ～地域の魅力でまちづくり～ むれ源平まちづくり協議会会長 新谷 稔……	7
身近なニュースコーナー……	10

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2019年3月号



歴史を伝えるビン玉の町並み 仲ノ町商店街

ります。マクロ文化の再創造は、極めて魅力的です。伝統文化が大切にされる町は、やっぱりいい町の条件のひとつです。

ところで、人口減少対策ですが、若者が住む、女性が目元な町、そのための政策について伺いたい。

町長：やっぱり一八歳から二五歳までの世代は極端に減ります。大学に行くにしても通えない実態があり、大学を卒業して帰って来たいけれども働くところがないという話があります。一方で、ホテル関係の方に聞くと、人手不足で、満室に

できない人手不足だと聞きます。そのミスマッチを少しでも解消する。あるいは観光に力を入れてお客さんが来れば、いろんな起業につながると思います。駅前でも何店か、イタリアンとかカフェとかできています。そういうふうな起業を支援していきたい。起業は若い人でないとなかなかできないと思います。

今あるお店も娘や息子が、あとを継がずにやめてしまうというケースもままあります。そこへ帰ってきていただいて、継続できるような、そのためには観光産業に力を入れて、交流人口もどんどん増やしていくことが必要じゃないかなと思っています。

鈴木：それと、女性がこの町で暮らしていこうという場合には、町の魅力度アップというのがとくに大事だと思います。子どもを生んで育てる、生活していく体制があるのかどうか。

町長：私は、勝浦というのは温暖な気候でもありますし、人情的にも厚いところ

なので、決して住みにくい町ではないと思います。子育て環境も保育所に入れないということもないので、環境としては悪くはないと思っています。

鈴木：高齢者対策は、どうですか。

町長：今現在で高齢化率が四一・一パーセントだったと思います。高齢化というのは、どんどん進んでいくと思います。ただ、元気なお年寄りがたくさんいらっしゃる。一方で人手不足というところがあるので、高齢者の方が、地域活動が生きがいになつてもらえるような組織づくりができないか考えています。

鈴木：高齢者を活かす仕組みというのは具体的には。

町長：実はシルバー人材センターに登録されてる方が、極めて少ないんですよ。誇りを持てるような、やって良かったな、喜ばれてうれしいなというぐらいの仕事をシルバー人材センターの方々と相談しながらやっていく必要があると思っています。

鈴木：なぜ少ないのか気になるそうですね。

町長：そうなんです。僕も分からないんですよ。この仕事手伝ってくれと言って、それがシルバー人材センターだったという方が多いのかなあ。平成三年の大水害のときに、町職員の手が回らない中で食料を運んだり、そういったことをOBの人が、率先してやってくれたんです。すごく大きな力になったと聞いているので、そこを制度化して、避難所回る方、土砂を運ぶグループとか、そんな組織づくりできないかと思っています。

鈴木：地域の住民の皆さんを信頼し、働きかけていくような取り組みが必要だということになるんでしょうか。

町長：はい。

地域振興の主力は

観光産業 基礎には減災・防災

鈴木：来年度の事業で、堀町長として重点的に取り組

みたいものは、今の段階でいかがでしょうか。

町長：観光事業を一から見直したいと思っています。観光協会にも多額の補助金も出ていますけれども、そのことも含めて、今まで取り組んできた全ての事業を検証していきたいと思っています。検証する中で、その重点的な予算配分をして、必要なものを必要とところへ予算を配分する。それは全部やっていきたいと思っています。

鈴木：観光産業をもう一度見直して、地域の振興に役立てるような取り組みのこれからを期待させてもらいます。

町長：主力産業の観光について、いろんなイベントや施設整備もするかもしれません。

鈴木：那智の三つの道の駅ですが、道の駅は今日、地域の様々な特産や資源が並び各地で特徴を競っていますが、那智では地域の農産物や漁業に関連する加工品などは十分登場しているのでしょうか。



那智の滝と原生林 手前は青岸渡寺三重塔

町長：品数でいくと、多くはないと思います。駅前には道の駅なち農産物直売所と道の駅那智駅交流センターがあります。そこは丹敷の湯という温泉があるんですけど、まだ品物は少ないと思います。

鈴木：そのほかに、これは、話しておきたいということがおありでしたら、いかがでしょうか。

町長：観光産業の振興は、やっぱり防災・減災、絶対安心であるということがべ

ー入で、それも視野に入れながらやっていきたいと思っています。すべてのものは防災・減災とつながっていると考えております。

また、那智の滝一〇〇年の森づくり事業で、どういう森づくりがいいのかという諮問機関を設けるのに、委員さんの選定について九月議会で議決をもらったところでした。

那智の滝というのは唯一無二、ほかにはないものです。ふるさと納税の納税先を考えていただくときには、ここをPRして、この山の保全を進めて、山全体の景観も見えていくきっかけづくりをしたいということで、年度途中からやり始めたものです。来年から具体的に、進めていくことになってきますので、年度途中で始めた事業です。

鈴木：その話というのは、かつて那智の滝の水源である森を守る取り組みがあったと記憶していますが。

町長：あれは、竹下内閣のときにふるさと創生基金という名目で各自治体に配つ

た一億円があつたのですが、よう使わなかったんです。これを何とかしないとということ、平成一三年に当時の町長が、那智の滝保全基金という基金をつくりなおしたんです。一億円のうち看板とこの募金箱で使っただけなんです。ふるさと納税が始まって、納税の寄附先ということで、那智の滝の森ということだったので、原資は一億円ですけど、そのあと二億円の寄附があつて、今三億円あります。それで植樹とか、納税していただいたら、宿泊券を返礼品として三割以内で返して、実際に来てもらって、植樹してもらおうとか、結婚して来てもらう。子どもができたらまた来てください。金婚式や銀婚式にもまた来てください。そういうリピーターづくりにもつながるでしょうし、子どもも苗植えて、山を見に行く。そこで郷土愛とかも生まれてくるのではないかなあ。観光もそうですけど、郷土愛の醸成みたいなことにもつながるのでやっ

ていきたい。これは皆さん方も特に異存はないです。

那智の滝観光は、ライトアップとかもしていますけど、その

参道も含めて那智の滝へ夜行つても楽しいとか、ナイトウォークみたいないろんな仕掛けをしていきたいと思っています。地域の方々からこの一〇〇年の森づくりも大変喜んでいただいて、いろんなご協力もいただけると思っています。

鈴木：眠っていた事業の可能性に対して、堀町長が着眼されたということになりますね。

最後に、堀町長にとっては年初には思つてもいない町長就任ということになつたわけですが、無投票当選でした。これについては、どういうふうに受け止めて今後町政を担当していくのか、お聞かせください。

町長：本来は選挙で審判を仰ぐというのが通常だと思っています。私が無投票になっ



那智の扇祭り

たというのは、森さんが町長に就任されたときに、役場の組織とかいろいろ相談を受けてお話をしました。立候補の時に森さんの町政を継続して発展させると申し上げていたので、そういう意味では、森さんの信任がそのまま私に信任をいただいて、無投票につながつたと思うんです。私は勝浦で生まれ育つたので、森さんよりも勝浦のことを知っ

ていると自負をしています。**鈴木**：那智勝浦つ子である堀さんですから、ふるさとを託そうというお気持ちがあつたということが、いまにいたつたということですね。向こう4年間、ぜひ、ふるさと那智勝浦町の発展のために活躍されることを期待しています。今日はありがとうございました。

第8回わかやま住民要求研究集会記念講演 ②

安倍政権が狙う地方自治体のあり方

始まっている「究極の構造改革」道州制への動き —平成の市町村合併の失敗を教訓に着々と—

京都大学大学院教授 岡田 知 弘



岡田知弘氏

前号（1・2月合併号）に続き第8回わかやま住民要求研究集会における岡田知弘氏の講演記事を掲載。

講演では、安倍政権が任期中にやりとげたいとしている、憲法改正と合わせもう一つの道州制導入について言及。

この間、国が推し進めてきた、平成の市町村合併に地方の反発が依然として根強い状況にある。そんななか如何にして地方自治体を「究極の構造改革」という道州制へ向かわせようとしているのか詳しく説明された。

（要約文責 自治研・九鬼）

財界代表の声 政策に

安倍さんが、なぜ強気になっているのか。それは財界の応援団があるからです。さくら会という後援組織が第一次安倍政権が崩壊した時にできました。主力メンバーは三菱重工、東

芝、日立です。いずれも軍需品メーカーであるとともに原発メーカーです。ここがずっと安倍政権の復活を狙っていました。そして真つ先にやったのが原発再稼働、輸出、インフラ輸出です、様々な電機とか鉄道の輸出、武器輸出でした。経団連は2005年、先ほどのメンバーが中心になり、武器輸出三原則をなくし武器輸出三原則の基本になっている憲法9条も改正すべきだと提言しました。今回、経団連会長になったのは、日立製作所の出身です。つまりさくら会の中核企業が経団連のトップになりました。第二次安倍政権の下で、財界との抱合体制

が、一層強まるのではないかと思います。

安倍政権が復活してから、日本経団連は、各党の政策が自分たちの政策にどれだけ近いかを評価し、高い評価の政党にたくさんのお金を出し、献金を出す仕組みを復活しました。もう完全に政策買収です。

さらに、経済財政諮問会議とか産業競争力会議や規制改革会議といった、政府の重要な意思決定機関に必ず財界代表者がポストを確保するようにしました。

経団連会長、そして経済同友会の会長、さらに、それを代弁するような学者議員など、選挙で選ばれていない人が、もっとも発言力が高いのです。結果、財界代表の声がすぐに政策に反映できる。これが、国家戦略特区などでも暗躍しているわけです。

さらに官民人事交流法等の活用で大企業の社員が大量に国家機関に向かうようになっていきます。第二次安倍政権になってから、それまで790人だった派遣

民間社員の数、1261人に増えました。特に政策の策定過程、調査、さらに、事業者認定まで関わっています。地方創生なんかも民間会社の思惑がいっぱい入った形で考案されて具体化されています。地域おこし協力隊の仕事でもうかつている企業は、竹中平蔵が会長のパソナです。マツチング事業で、例えば和歌山県に來たい人を対象に旅行会社と組んで人材派遣する仕組みです。防衛省職員も含めて国家公務員の基礎自治体への派遣も増やした。

最大の問題は 幹部職員の人事権

最も問題なのは、内閣人事局をつくったことです。これは第二次安倍政権が始まってすぐ2014年に設置されました。それまでは人事院が各省庁の事務次官などの進言に基づきながら任命していた600人余りの中央省庁の幹部職員人事を官邸が決める。自分たちの言うことを聞き、付



講演中の会場風景

度してくれそうな人物を登用していく、あるいはものを言う人物は排除していく仕組みをつくりあげました。個々の政策が問題だというよりも、実はその発生源の仕組みが問題なんです。これを壊さないと民主的な国家にはならないと思います。前号で三権分立ができてないと述べました。安倍さ

んの友達なら、準強姦罪に問われても起訴されない、モラルのないひどい国家になってしまった。

何をやっても権力さえ握ったら大丈夫だという価値観がどんどん広がっています。

富国強兵と地方創生

心配なのは共謀罪です。戦前の治安維持法も施行して3年目ぐらいで逮捕や検挙が増えてきました。そういうことから、警察、検察による横暴のチェックが必要になってきています。

こういうような非民主的な国家になりつつあります。こういう流れを私は「富国強兵国家」と呼んでいます。富国の国は多国籍企業の「国」です。多国籍企業だけが豊かにならばいい。そのための軍事・戦争国家づくりです。これは軍需産業の利益やアメリカとの同盟を重視するという意味での富国強兵国家づくりです。それと地方自治体の在り方が直結していくことにな

ります。竹中平蔵さんは、産業競争力会議の議員とかを務め、今も、安倍政権のブレーンです。国家戦略特区の原形となる「アベノミクス特区」も提言しました。「特区を作って規制改革をし、その延長上で、地域が独自性を発揮して最終的には道州制に行き着くことになる。こういう改革が必要だ」としています。これが今、国家戦略特区という形で税制、土地、労働法制など様々な面での優遇措置を指定地域で推進しています。これが地方創生とも関係しています。道州制、規制緩和、そして地方創生は一体のものであるというのは、実は、自民党の2014年の選挙公約で書いていることなのです。

地方創生のねらい

地方創生により何をやりたいのか。先の選挙公約で「国、都道府県、市町村の役割分担を整理して、住民に一番身近な基礎自治体（市町村）の機能強化を

図ります」と明記しています。道州制を意識して、県の役割は最終的には廃止を考えています。県を廃止すれば市町村で、県の一部の行政サービスをやれる能力、そして人員と予算の確保が必要です。そこで、「市町村機能の強化」というのは平成の合併のときにも言われましたが、「機能を高める」ための合併です。しかし、合併がうまくいかなかったことから、連携中枢都市圏という新しい枠組みで、中核市を軸にしながら周辺部の町村が連携し、その連携体に自治権を与えていく、「自治体戦略2040構想」が政府内で議論されています。

この7月から正式に地方制度調査会において、そういう仕組みに持っていくための地方分権改革が検討されています。注意してほしいのは県の役割が消えるということです。県というのは、地域格差の調整をしています。かつて、橋下大阪府知事が、関西州になったときの絵を描きました。関

西空港とか、それを結ぶ高速道路や港湾整備に、周辺の県の財源を集めて集中的に投入していく地図でした。その地図には、和歌山市も京都府も京都市も入っていない。大阪を中心とした大阪都をつくっていく、これが選択と集中の典型的な考え方です。

見捨てられる和歌山

では、和歌山県南部地域はどうなっていくのでしょうか。道州制になると、誰も責任は取らないわけです。

自民党の公約では、地方創生を規制改革によって実現するとしています。国家戦略特区の指定で、これまでにないような規制改革をやり、例えば民間企業に農地の所有を認めさせていく。兵庫県の養父市では、ナカバヤシという製本会社に農地の取得と農業参入を認めました。こういうところは、政府から見ても、やる気のあつたところ、志の高い地方自治体と認定をして、手厚いサポートします。



第2分科会「医療・福祉・介護」の会場風景

14年の総選挙が終わって、2015年の1月、新たに国家戦略特区として指定されたところが今治です。加計学園ですね。法に基づいて指定したと言っています。が、実際にやっていることは完全に行政の私物化です。地方創生に関しては、地域を元気にするというイメージを広げるために、初代の石破大臣が、地域の特産物を宣伝する光景をマスコミは流しています。けれど

憲法改正と道州制

も、一番重要で本質的な点は、「国のかたち」を道州制に近づけていくことです。

第一次安倍政権のときから

安倍さんは、憲法改正と併せて道州制導入を必ずやると言っていた。何でそんなにこだわるのか。実は日本経団連も道州制にこだわっており、御手洗キヤノン会長が経団連会長になった

ときに、第一次安倍政権とタッグを組んだ。そのとき、御手洗会長は「究極の構造改革」という表現を使っていました。どういうことか。都府県を廃止して、10程度の州を設ける。関西州が最も近畿では想定されるわけです。最終的に300ぐらいの基礎自治体（人口約30万人）に再編する必要がある。平成の大合併でこれやろうとしたけれども大失敗しました。そこで、合併ではなくて、連携中枢都市圏という新しい圏域行政の単位をつくりまとめていくという考え方です。なぜ都府

県廃止にこだわったのかというのですが、御手洗会長が、かつて『文藝春秋』誌で、県をなくしたら国の財源が毎年10兆円浮く。その財源を大規模公共投資に回すことができる。そのために県をなくす必要がある。と述べているのです。

国に従う地方自治体に

そして、この財界にとつての経済的利益以上に問題な点があります。橋下大阪府知事（のち大阪市長）が二重行政は無駄と繰り返し言っていました。国、都道府県、市町村が、明確な役割分担をすべきと言いました。これは経団連の提言と同じです。国は外交、軍事、通商政策だけに特化する。そして道州政府は産業基盤、道路とか空港とか鉄道、港湾、に特化する。国土交通省の仕事です。そして経済政策は州ごとに自由にやるようにする。さらに、高等教育、国立大学法人、あるいは県立大学も地方独立法人として民間の学校法人と合併をする。かつ関西州になったら京都大学も和歌山大学も、関西州立

じゃあ基礎自治体は何をやるかといえば、住民に一番身近な医療、福祉、そして義務教育です。どういふことか。沖縄の基地問題について、沖縄県知事や多くの市町村長も、基地はいらない、あるいはオスプレイはいらないと国に対して物申しています。これは今の憲法と地方自治制度だからできることです。それが、先ほどの「役割分担」になると、基地問題は、外交、軍事に関することから、基礎自治体の首長も議会も何も言うことできないということになる。つまり、明治憲法下の地方団体と同じです。今の戦後憲法は国と地方自治体が対等な関係で水平的な関係です。これでは戦争が

大学京都校、和歌山校にすればいい。そしたら人を減らせる。選択と集中ができる。今、岐阜大学と名古屋大学の法人統合が進んでいます。

できないから、垂直的關係に変えていこうということです。これは地方分権改革の先に彼らが狙っている姿です。つまり改憲と併せて、地方自治制度を変えながら、国の言うことを聞く地方自治体に変えていく。これこそが、最も本質的な道州制の問題点ではないかと思えます。正に、「究極の構造改革」です。

そもそも市町村合併が大失敗した。だまされた。ほとんど周辺部が廃れていった。これは公然の事実です。道州制に関しても、町村会の保守系の市町村長でさえ異議申立てをしている。だから、幾ら道州制推進基本法を安倍政権の下でつくろうとしても、国会に上程もできない状況が続いています。動きが出てきています。できるところからやるという選択的道州制論です。2018年の骨太方針では、道州制について、基本法案の動向を踏まえ、必要な検討を進めると、既に書かれています。

地域資源を活かす ①

～地域の魅力でまちづくり～

最高級ブランドの庵治石と源平合戦の史跡を融合



新谷 稔氏

むれ源平まちづくり協議会 会長 新谷 稔

今回は、昨年11月27日に和歌山県自治会館で開催された、平成30年度地域づくりネットワーク和歌山県協議会研修交流会で新谷稔「むれ源平まちづくり協議会」会長が講演された内容を、講師の承諾を得て掲載させていただきます。

「むれ源平まちづくり協議会」は、香川県の高松市と合併した牟礼町が、合併する前に牟礼町の有志でつくった団体で、そのまちづくりを報告していただきました。

(文責 研究所 西岡)

牟礼町の紹介

牟礼町は、昔から墓石とか灯籠とかに使われる庵治石の採石と加工の町でした。庵治石は国内産の石の中でも最高級ブランドの石です。その石が採れるのが、庵治町から牟礼町にまたがった地域です。

また源平合戦の一つ屋島壇ノ浦合戦の古戦場史跡が

地域づくりのスタート

高松市との合併の前に、

牟礼町のオリジナリティーがどんどん薄れていくのは面白くないので、何とかしたいという想いのもとに、旧牟礼町の呼びかけで有志が何人か集まって、牟礼町の風土を活かしながらまちづくりを展開できるように、今から地域づくりをスタートさせようと始めました。ちょうどその頃、NH

Kの大河ドラマで『義経』の放映が決まっていた、源平合戦の古戦場の史跡文化と、地元の庵治石の石材文化をうまく融合させたまちづくりができないうろいろ検討して、まちづくり協議会を立ち上げて、準備委員会として始めました。

当時は、合併後も牟

礼町として、地域の資源をうまく活用した地域づくり

をするにはどうしたらいいのか、ということだけを半年間ずっと考えました。

そんな中で、牟礼町の原風景だけは守ってまちづくりをやっていくと決めました。牟礼の原風景を考えていく中で、コンセプトとして源平史跡文化と石材文化をテーマに地域づくりを推進していくというのを決めました。それを具現化するために、道並み・街並み景観保存委員会、源平史跡保存委員会、観光案内検討委員会、石の民俗資料館活性化委員会、イサム・ノグチ委員会、駐車場委員会

という6つの委員会を立ち上げました。

最初の呼びかけは、行政から始まったんですが、自分たちでできることはやろうということ、委員会の運営は、場所も含めて自分たちでやろうと決めました。大きなハードの修景工事については、行政にお願いをしました。

つくることばかりではなくて、楽しいこともやろうということ、リアル源平合戦というゲームをやっています。子どもたちが源氏の白組と平氏の赤組に分かれて、頭に風船を付けて風船割をします。このゲームを通じて、紅白歌合戦や野



駒立岩の紹介板

まちづくり協議会の発足(H16.4)

・地域を見つめ直し、その「良さ」を再認識

基本テーマ「原風景」

「源平史跡」と「石材産業」を中心に

あらゆる角度から
まちづくりを展開



6つの委員会

- 1、道並み街並み景観保存委員会
- 2、源平史跡保存委員会
- 3、観光案内検討委員会
- 4、石の民俗資料館活性化委員会
- 5、イサム・ノグチ委員会
- 6、駐車場委員会

まちづくり協議会の発足

自分たちで
できることは
やろうという

した。

お願いをし

てほしいと

なイメージに

こういふふ

るのであれば、

修景工事をす

るのこの辺の

にお願いして、

もしこの辺の

修景工事をす

るのこの辺の

にお願いして、

もしこの辺の

にお願いして、

もしこの辺の

にお願いして、

もしこの辺の

にお願いして、

もしこの辺の

にお願いして、

もしこの辺の

にお願いして、

もしこの辺の

にお願いして、

もしこの辺の

にお願いして、

もしこの辺の

にお願いして、

もしこの辺の

グループの人たちが、学校
へ出向いてやっています。

グループの人たちが、学校

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

へ出向いてやっています。

ある日、原風景を何か形
にして発信できるものをや

石あかりロード



ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

ある日、原風景を何か形

にして発信できるものをや

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

とで始まったのが石あかり

石あかりロード誕生まで ~各委員会での議論~



そうだ！！
点(史跡)と点(史跡)を
つなげるために
石あかりを道するべに灯し、
線(ロード)に
すればいいんだ！



石あかりロード誕生まで



石あかりのモニュメント

ロードです。
それはずっと続ける気はなくて、取りあえずやってみようという気持ちで始まったのがこの事業でした。怖い物知らずで、地元の電鉄会社に香川県内全部乗れるフリーきっぷを、それも庵治石でつくつてと掛け合

って作ってもらったんです。それも庵治石のきっぷを桐箱に入れて、1枚8000円から1万円ぐらいで限定200ぐらいだったと思うんですけど、確か2日ぐらいで売り切れたのでびっくりしました。実際に使える桐箱に入った庵治石きっぷというのは、鉄道マニアにとってはもうすごかったんですね。

関係又は木材関係、それから設計、デザイナー等々ありとあらゆる他産業ともコラボしました。そういう業界団体も含めて、個人の人たちともコラボしながら異業種間で石あかりを作品化して展示するところに、ほかの産業のものづくりも持ち込んで一緒にやったりしております。

毎年2か月ぐらiyorんですけども、週末の土曜日はイベントデーということで、いろんな人たちに参画していただいてやっています。2か月近くやっているという時間軸の長さがうまく功を奏して、石あかりロードはまあまあ人が来るので、例えば、和菓子屋さん新しい商品をつくったので、そこでテスト販売させてくれとアンテナショップ的にやったりしています。他にもいろんな人たちがいろんな形で、このイベントの中に持ち込んできます。我々は、イベントとして盛り上げてくれることも有り難いし、それぞれが成長してい

くので、我々が目指していたのと、別に、単なるイベントとしてではなく、地域のハブ的な役割を担いながら成長して

いるというのが現実なんです。そういう意味では、多種多様な要素を持ち込んで、いろいろなチャレンジをしてみらえるようなイベントに少しずつ変わってきたのかなと思っています。このイベントには、いろんな人たちが参加していますから、毎年ではないんですが、住民の方にこの事業を続けていくかどうかというアンケートを取っています。それは、作品を庭先に

石あかりロード開催後の住民アンケート

(石あかりのお世話をしてくれた沿道住民を対象に実施)

Q. 石あかりロードは今後、続けていくべきでしょうか？

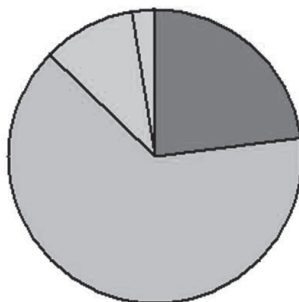
【結果】

ぜひ続けるべき	23%
続けた方がよい	64%
どちらとも言えない	10%
続けない方がよい	3%

お世話をしてくれた住民の

約87%

が存続を希望してくれています。



継続意思のアンケート

置かしてもらっただけではなくて、電気代までその家の人に負担してもらっているから、地域の人たちが受け入れてくれないとできないのがこの事業なんです。今は地元の人たちも100パーセントオーケーじゃないですが、夏の風物詩として受け入れてくれるようになって、一緒に楽しんでいるような状況です。

水道事業に関する会計の17年度決算では、4市町とも黒字だった一方で、白浜町が今年9月、全国的に見ても安価な上水道の料金を引き上げるとしている。